



令和6年2月1日発行

No.11



ごあいさつ

県母子部会長 岩下晴美

新年を迎え、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

昨年5月、新型コロナウイルスが第5類に引き下げられました。2020年からの世界的パンデミックから数年が経ち、キャッシュレス決済やセルフレジが主流となりICT化という新時代に出会えたような気がいたします。

しかしながら、激動する時代の中にも、私たちが営んでいた生活様式に戻っていることも多くございます。今までは規模を縮小して実施していた行事も、今までどおり実施しているイベント等が多いと思われます。もしかしたら、子どもたちにとっては、「今まで通りの生活を送れるようになる」ことが一番大切なことなのではないでしょうか。当たり前のことが出来なかった分、その重みを十分に知ることができました。無論、過ぎてしまった時間は取り戻すことは不可能ですが、家族、友人、信頼のおける人等に囲まれて、これから先の未来はどうか明るく過ごせるようにと願うばかりです。

さて、令和6年度関東地区母子寡婦福祉研修大会は栃木県で開催されます。現在この研修大会に向け、準備を進めているところでございます。この研修大会を通じ、ひとり親家庭の実際の声により多くのスポットライトが当たり、実りのある大会に出来ればと考えております。

最後になりますが、栃木県ひとり親家庭福祉連合会の益々の発展を祈念いたしまして、ごあいさつといたします。

夢を応援基金 「ひとり親家庭支援奨学金制度」



全母子協とローソングループが力をあわせ、ひとり親家庭の生徒さんを応援する「給付型奨学金」です。

- ◇奨学金額 月額3万円（返還不要、他の奨学金と併用可）
- ◇対象者 中学3年生、高等学校等1年～3年生
- ◇募集人数 全国400名（申請書、作文・面接等の選考により決定）

2023年度 栃木県では、5名の奨学生が給付を受けています。



2024年度は、2月中旬頃 募集内容が発表されます。

※詳細については、全国母子寡婦福祉団体協議会のホームページで確認してください。

頑張ってます！

各市町母子会の活動状況や頑張っているお母さん、子どもたちを紹介します。

* 鹿沼市 *

♥ お母さんと参加しました。遅刻したら大変とお母さんに言われて集合場所に着いたらまだバスも受付の人も来ていませんでした。(笑)

久しぶりのバスの遠出、それに僕よりも小さい子達やはじめましての人もいたので緊張しました。水族館で見学してから乗り物に乗りました。アクアライドという乗り物に乗りました。水しぶきがかかってくるのでハラハラしながら乗りました。とても楽しかったです。ありがとうございました。(ユキ)

♥ 10月29日八景島シーパラダイスに参加させて頂きました。当日は朝から曇り空で高速で向かっている間も雨が降ったりして少し心配でしたが、現地に着くと天気も回復し行楽日和になりました。水族館もアトラクションも楽しめ、行きのバスの中でバスガイドさんに教わった千円クジで可愛いぬいぐるみもゲットできました。今回このような企画を開催して下さいありがとうございました。また次回も楽しみにしています。(福田)

* 下野市 *

♥ 令和5年11月25日(土)ゆうゆう館駐車場で開催された下野市ふくしフェスタに模擬店を出しました。今回は従来通りの形にもどり食品販売が許可されました。衛生面に充分注意して「みそ田楽」販売と「お菓子のつかみ取り」をする事にしました。

大きく切ったこんにゃくに甘みそをたっぷりつけた田楽、取り出し口直径10cm開けた箱にお菓子いっぱい詰め込んだ物を2つ用意しました。開店9時早々小学生2人がつかみ取りに挑戦です。箱の中に手を入れ思いっきりつかみ取ったお菓子の大喜び、あんまり取れなかった子にはおまけ数個「ありがとう」の言葉に私達も笑顔になれました。大人も子供も、お菓子の数に一喜一憂し笑い声が絶えません。11時頃には「みそ田楽」のお客が増えて来ました。その中には、なかなか交流会に出られない会員の元気な姿もありました。とっても嬉しい事でした。14時には70食用意した「みそ田楽」も「お菓子のつかみ取り」も完売しました。冷たい風の中あつあつの「みそ田楽」が喜ばれたようです。思った以上の売上金は、会員交流会に活用させて頂きます。同時にパンフレットを手渡し出来て良かったと思います。有意義な参加でした。

この模擬店に協力して下さいしたのは役員3人でした。前日の買い物準備、当日も早朝から準備開設まで大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。(田口 茂子)

* 塩谷地区連合体 *

♥ 新型コロナ5類移行後制限緩和されてから、初めての事業でぶどう狩りを計画したところ、応募者が予定よりも多い20名も集まり、喜ぶ反面、予算が間に合うかなと少し不安になりました。ところが、コロナの感染者や体調不良者が続出してしまい、当日は半分の10名となってしまいました。

8月27日(日)、町内の大野ぶどう園にて、現地集合でした。お天気にも恵まれ、園ではぶどうの味見もでき、子供達は、エンドレスで食べていました。

ぶどうをゲットした後、みんなでファミリーレストランへ行きました。予算が限られているため、皆さん真剣にメニューを見て、選ぶまでが大変だったようです。親子で外食する機会も少ないと思うので、とても楽しんでもらうことができました。

参加人数が半分になってしまうというハプニングもありましたが、新規の親子が一組参加してくれて、役員としても嬉しく思いました。

これからも、子供から大人まで、みんなで楽しめる時間が増えるよう、企画を考えていきたいと思います。また、集まった時に役立つ情報も伝えていきたいと思います。(H.E)



* 足利市 *

♥ 令和5年8月20日、コロナの影響でなかなか実施出来なかった母子招待事業を、3年ぶりに実施することが出来ました。大型バス1台貸し切り「横浜みなとみらい」に行ってきました。バスのドライバーの方も親切で途中「あれがドクターイエローですよ」右にガンダムが見えますよ」などと説明してくれました。

赤レンガ近くの駐車場にバスをとめ、降りてからは自由行動でした。日中36℃の暑い中、親子は元気にあちこち出かけに行きました。皆さんそれぞれ中華街に行き楽しんできた様子。帰りが遅くなりそうだったので早めに集合しました。

疲れたのか帰りのバスの中は、ほぼお昼寝モード。帰りの挨拶で「本日の招待事業はいかがでしたか？」と問うと大きな拍手がかえってきました。

皆さんの協力のもと無事に帰宅できました。来年も、もっともっと親子で楽しめるプランを企画したいと思っています。(大野 寿美子)



* 那須塩原市 *

♥ コロナで約3年、思う様に活動が出来ませんでした。ようやく去年のクリスマスから少しずつ活動しています。

10月には群馬県の高崎観音、コンニャクパークに行って来ました。体育の日とあって参加者は少なかったのですが、久々のバス旅行とあって子供達も喜んでいました。コンニャクパークでは、試食や詰め放題を楽しんで来ました。今後は子供の部活動等の配慮をして行くべきだったと反省です。又12月にはクリスマス会を予定しています。各自ケーキのデコレーションを楽しみ、お昼を食ベインゴゲーム等予定しています。去年はサプライズで、たくさんのプレゼントがありました。化粧品やお米、おもちゃ等盛り沢山でした。今年も予定していますのでたくさんの参加者があれば嬉しいです。(織田 敏枝)

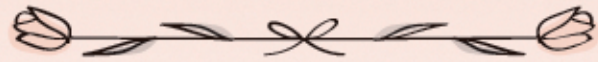
* 壬生町 *

♥ 壬生町ひまわり会では、令和5年度6月に、毎年恒例となっている「いちご狩り」から始まり、11月には親子交流事業として「クリスマスまが玉ワークショップ」を開催しました。

まずは長方形の石にまが玉の形を下書きし、その後は数種類の紙ヤスリなどを使って自分の形に合わせて、ひたすら削っていきました。時間が限られていたので、最後の艶出しまで仕上げられなかった方がほとんどでしたが、ひとつとして同じ形のない思い思いの形に仕上がっていて、世界にひとつだけの御守りは宝物のひとつになるのではないのでしょうか。そして一段落した後は、開催時間より1時間半前に集合した役員の皆さんがカレーライスを作り、シフォンケーキや季節の果物などを準備して、参加してくれた皆さんに食べていただきました。

今回の母子は、下は小学2年生から、中学生、高校生、専門学校生と、幅広い参加をいただきました。コロナも5類になったとはいえ、これからは感染対策をしながら、会員の皆さんの笑顔が溢れる活動をしていきたいと思ひます。

(石川 由美)



関東ブロック大会に参加して

令和5年9月23日に東京都で開催された関東ブロック大会に参加させていただきました。それぞれのテーマごとに各団体の取り組みや体験談の発表があり、どの発表も頑張っているお母さん達の声で共感できることも多くとても参考になりました。ひとり親で頑張っているのは自分だけじゃないと感じ、何かを始める時、頑張る時に背中を押してくれる人がいることはありがたくて心強いことだと再確認する良い機会となりました。栃木県のテーマは「母子と寡婦共に育む未来」栃木県ではひとり親家庭のお子さんを対象とした学習支援や進路相談に応じる「ひとり親家庭学習支援事業」を那須塩原市、高根沢町、鹿沼市の3か所で実施しています。この学習支援事業の鹿沼市での取り組みと私の体験を発表しました。月2回のペースで無料学習塾『ぶちとま●かぬま 学び家』を実施しています。私の息子も4年生からお世話になっていて、最初は2時間も勉強が出来ず、すぐに飽きてしまい迷惑をかけていました。私は空いた時間を利用して資格取得、仕事のスキルアップの勉強が出来ました。本当は子どもを待つ時間を使って、お母さんのためのスキルアップ講座を行えばよいのですが、様々なニーズに答える事も難しく、時間と費用の問題もあり、母子と寡婦との交流イベントの実施や役員会などを行っています。参加した寡婦さん達に子ども達を見守ってもらえている安心感と共に、家族のように我が子の成長を喜んでくれることに感謝しています。子ども達も家族や学校の先生以外の大人から褒めてもらえる、認めてもらうことはとても良い成功体験となっています。今年、中3になった息子も、優しい笑顔と言葉に助けられ、励まされている1人です。このような体験を多くの子ども達に経験して欲しいと思います。教育という大きな問題ですが、この問題を解決できなければ、子どもだけでなく親の未来も開けません。学習意欲の低下や未来への生きる希望の低下に繋がり、自立を阻害する要因となります。母子と寡婦が、共通の認識を持ち協力したことで信頼関係を築くことが出来たからこそ、新たな事業に発展したと思っています。残念ながらこの学習支援事業は県下全ての市町村で開催することが出来ていません。今後も母子と寡婦が協力して新しい事業に取り組み、会の存続意義を高めていけたらと思っています。

(森田 奈巳子)





ひとり親家庭サポーターのつどい

R5・11・12(日)

ひとり親と子どもの貧困をなくすためには ～ 支援団体の立場から ～



令和5年11月12日(日) パルティ・ホールに於いて、ひとり親家庭サポーターのつどいが「ひとり親と子どもの貧困をなくすためには～支援団体の立場から」と題し開催されました。NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむの理事、小森雅子先生にお越しいただき、ひとり親家庭のための情報サイトを作り、多くの体験談を載せ元気になれる様に、又親子イベントを行ったりとあらゆる角度から支援をしてくださっている事を知りました。

ひとり親世帯の現状のお話の中で、収入を得るために働く事ばかりで子供と接する時間がなくなり、又世間からひとり親家庭だからと言われないように気にしすぎて、抑うつになってしまう人もいると聞き、離婚してもうすぐ10年になる私は、困った事があると手を差しのべてくださった「ひとり親家庭福祉連合会」の方々のおかげで、子育てできたんだなあと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。支援をしてくださる方々の役割について、共同親権導入について等、大変貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

(栃木市 谷部 靖代)



編 集 後 記

コロナウイルスも5類になり、皆様の生活も少し落ち着きを取り戻し、会の事業も徐々に始められるようになってきたようです。

さて、今年はパリオリンピックですね。選手たちの活躍に声援をおくりましょう。

また皆様の楽しい投稿をお待ちしています。



「ぶちとまと」は、赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

